

指定される文化財の概要（※下線は用語解説あり）

名称	円教寺摩尼殿（えんぎょうじまにでん）	附(つけどり)	棟札1枚、図面48枚
員数等	1件(棟)		
所在地	姫路市書写2968番地		
所有者	宗教法人 円教寺		
構造形式	桁行21.9m、梁間18.3m、入母屋造、西面張出附属、東面向拝一間、向唐破風造、本瓦葺		
建設年代	昭和8年(1933)（棟札による）		
指定基準	「意匠的に優秀なもの」		

概要

円教寺は、姫路市中心市街地の北西約6kmにある書写山に寺地を構える天台宗寺院で、康保3年(966)に性空上人によって開かれた。摩尼殿は、天禄元年(970)の創建とされ、桜の立木に如意輪観音を刻んで本尊としたことに始まると伝わる。円教寺の観音信仰の中心的仏堂で、西国三十三所霊場二十七番札所にも数えられる。大正10年(1921)の焼失後、中世に遡る前身建物の規模と構成を踏襲し、京都帝国大学（現京都大学）教授の武田五一の設計のもと、大工棟梁家の十一世伊藤平左衛門の手により、昭和8年(1933)に再建された。

急峻な斜面地上に南面して建つ懸造の建物で、桁行九間、梁間七間の規模で、西面の一部を張り出し、東面に向唐破風造の向拝を付して、正側面の三方には、擬宝珠高欄付きの縁を巡らす。屋根は入母屋造、本瓦葺で、二軒繁垂木の軒を大きく張り出す。内部は、前方を外陣、後方を内陣、内陣背後を裏堂とし、西面の張り出しに護摩堂と位牌堂を配す。内陣は、中央北寄りに二本の太い円柱を立てて上部を飾り、北面に五連の仏壇を裏堂に張り出す形で設ける。仏壇中央間には、本尊の如意輪観音坐像（県指定）を安置する。

円教寺摩尼殿は、斜面に張り出し、懸造とした躯体は木太く豪壮で、中世の技法である隅延びを用いた軒の曲線は雄大であり、軒と縁下に三手先の組物が整然と並ぶ姿は圧巻である。なめらかな輪郭をもつ墓股、繰型のある木鼻、仏壇下の格狭間、内陣彩色などの細部は、古代から中世の意匠を参考に、木鼻等に装飾密度の高い植物文様の彫刻を施すなど、近代の感覚で華やかな意匠にまとめている。近代に再建した寺院建築の中でも規模が大きく、全体バランス、細部意匠とも質が高い均整のとれた近代の寺院建築の傑作として意匠的に優れている。



外観南面



外観東面



外観向拝正面



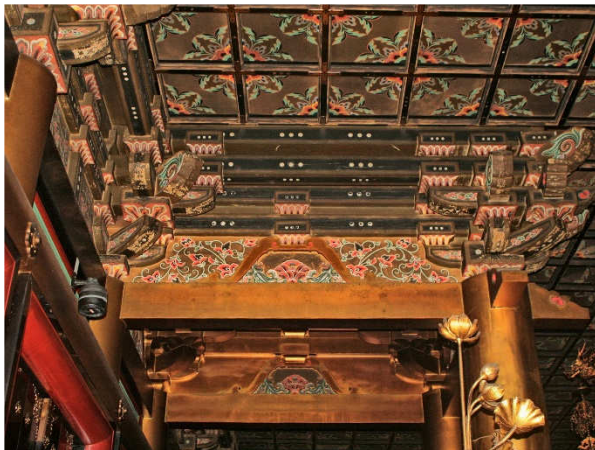
外観南面縁下



外陣



内陣



内陣彩色



柱の隅延び



木鼻

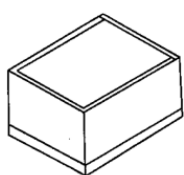


墓股

<参考>

※用語解説	
棟札 (むなふだ)	建物の建造・修築の際に、棟木等に打ち付ける板で、施主・施工者・年月日等を記したもの。
性空上人 (しょうくうしょうにん) (910?~1007年)	平安時代中期の僧。書写上人とも呼ばれる。36歳で出家。日向霧島山・筑前背振山で修業、のち播磨書写山に入山し、円教寺を創建。円教寺は花山法皇の行幸があり、以後公家らの帰依を受けて発展。
武田五一 (たけだ ごいち) (1872-1938)	建築家、建築学者で、アールヌーボーやセセッションなど新しいデザインを日本に紹介した。京都帝国大学建築学科の教授などを務め、後進の育成にも尽力したため、「関西建築界の父」とも呼ばれる。
伊藤平左衛門(十一世) (いとう へいざえもん) (1895-1976)	伊藤家は、尾張藩作事方を務めた大工棟梁家で、代々当主が平左衛門を襲名。摩尼殿再建の時期は11代目伊藤平左衛門が当主を務めていた。11代の他の主要作品として、出雲大社拝殿(島根県)などがある。
懸造(かけづくり)	山または崖等の高低差が大きい部分に、長い柱や貫で床下を固定して造る構造形式。
向唐破風(むかいからはふ)	破風の一形式で、下半が凹曲線をなし、上半が凸曲線をなす形状のものを唐破風といい、これが正面を向いているもの。
向拝(ごはい)	仏堂や社殿の主正面に付された、柱をたてて屋根を張り出した吹放しの部分。
入母屋造 (いりもやづくり)	上部を切妻造(前後2方向に勾配をもつ)、下部を寄棟造(前後左右4方向に勾配をもつ)の屋根とした建物の形式。
本瓦葺(ほんがわらぶき)	丸瓦と平瓦を交互に組み合わせた屋根の葺き方。
擬宝珠高欄 (ぎぼしこうらん)	宝珠柱を所々に建てた欄干。建物の縁回りや須弥壇の四方などに設けられる。
二軒(ふたのき)	上下二段で出の異なる垂木からなる軒。下段を地垂木(じだるき)、上段を飛檐垂木(ひえんだるき)という。摩尼殿では、各垂木を軽く反らせ、地垂木は先端の高さを増し、飛檐垂木は先細りさせることで、全体に変化を与えると同時に軒先を軽くみせる。
繫垂木(しげだるき)	垂木同士の間隔が垂木幅と等しい配置形式。
隅伸び(すみのび)	隅柱を他の柱より少し長く造ることで、軒反りを美しくみせる建築技法。
三手先(みてさき)	壁面から前方へ斗(ます)組みが三段に出ているもの。
墓股(かえるまた)	二本の水平材の間であって、上に斗(ます)をのせた曲線形の輪郭をもつ建築部材。
木鼻(きばな)	梁などの水平材が、柱の向側に連続して、突出する部分。
格狭間(こうざま)	主に須弥壇や仏壇などの基壇部側面に施される装飾。

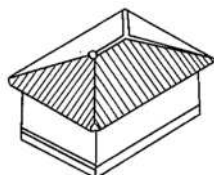
屋根の形式 ー建築用語図解辞典よりー (■今回関連の用語)



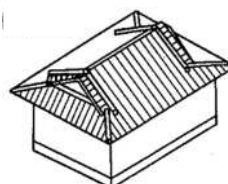
陸屋根



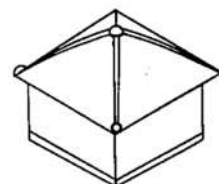
切妻屋根



寄棟屋根



■入母屋屋根



宝形屋根

○姫路市の重要文化財（建造物）指定状況

種別	現在指定数		今回指定		合計	
	件数	棟数	新規		件数	棟数
			件数	棟数		
重要文化財建造物	20 (5)	105 (8)	1 (0)	1 (0)	21 (5)	106 (8)

※（ ）内の数字は国宝の数

○円教寺境内建造物 文化財指定状況

今回の指定により、円教寺境内の文化財指定は、国指定9件14棟、県指定4件8棟、市指定1件1棟、の計14件23棟となる予定です。

区分	名称	棟数	時代	今回指定内容
国指定	1 円教寺大講堂	1 棟	室町	
	2 円教寺鐘楼	1 棟	鎌倉	
	3 円教寺金剛堂	1 棟	室町	
	4 円教寺食堂	1 棟	室町	
	5 円教寺常行堂	1 棟	室町	
	6 円教寺奥之院 ・護法堂（乙天社及び若天社） ・開山堂 ・護法堂拝殿	4 棟	室町	
	7 寿量院 ・客殿および庫裏 ・棟門	2 棟	江戸	
	8 十妙院 ・客殿および庫裏 ・唐門	2 棟	江戸	
	9 円教寺摩尼殿	1 棟	昭和	県指定「円教寺摩尼殿」を新たに国指定へ
県指定	1 円教寺薬師堂	1 棟	鎌倉	
	2 円教寺仁王門	1 棟	江戸	
	3 本多家廟屋	5 棟	江戸	
	4 石造笠婆塔	1 基	鎌倉	
	円教寺摩尼殿	1 棟	昭和	「円教寺摩尼殿」を国指定へ
市指定	1 圓教寺愛宕社本殿	1 棟	江戸	